第 6 8 回 江戸川区廃棄物減量等推進審議会 議事録

開 催 日 令和 6 年 7 月 1 9 日 (金)

会 場 グリーンパレス 2 階 高砂・羽衣

報 告 事 項 (1) 令和 5 年度のごみ・資源量について
(2) 災害廃棄物処理計画の改正について
(3) 不用品リユースの進捗状況
(4) 製品プラスチック回収導入に係る検討部会実施報告

江戸川区廃棄物減量等推進審議会事務局
(江戸川区環境部清掃課)

【事務局（久保課長）】

皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

開会に先立ちまして、本日使用いたします資料の確認をさせていただきます。机上に御用意いたしました資料、事前送付を含めて確認させていただきます。

まず、事前にお送りしました次第でございます。こちらは1枚の次第でございます。

続きまして資料1、こちらが新委員紹介及び環境部職員人事異動についてという資料でございます。こちらも1枚ものになります。

続きまして資料2でございます。江戸川区廃棄物減量等推進審議会委員名簿、第12期の名簿でございます。こちらも1枚ものでございます。

続きまして資料3、こちらは令和5年度のごみ・資源量について（速報値）ということになっております。こちらも1枚の資料です。

続きまして資料4、江戸川区災害廃棄物処理計画改定の概要となっております。こちらはA3の折りもので用意しております1枚ものの資料でございます。

続きまして資料5、不用品リユースに向けた進捗状況について、こちらも1枚になります。

資料6、製品プラスチック回収導入に係る検討部会実施報告、こちらはクリップどめの1部の資料となっております。

最後に、参考といたしまして、前回の廃棄物減量等推進審議会の議事録をおつけしております。

以上8点でございます。資料の不足等ございましたらお教えいただけますでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

本日、お忙しい中、本当にありがとうございます。それでは、初めに、新委員の御紹介でございます。資料1を御覧ください。今年の2月に開催いたしました前回第67回の審議会以降、委員の交代がございましたので、ここで新たになられた方を御紹介させていただきます。

生活振興環境委員会委員長になられました所隆宏議員でございます。

【所委員】

所でございます。よろしく願いいたします。

【事務局（久保課長）】

同じく、同委員会副委員長の岩田将和議員でございます。

【岩田委員】

岩田でございます。どうぞよろしく願いいたします。

【事務局（久保課長）】

ありがとうございます。

なお、環境部の転入職員につきましては、資料1のとおりでございます。また、お配りしました資料2が最新の委員名簿となりますので、御確認をお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、審議会開催に当たりまして、環境部長、天沼より御挨拶を申し上げます。

【天沼環境部長】

皆様、改めまして、こんにちは。江戸川区環境部長の天沼と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

昨日、関東甲信地方、梅雨が明けまして、今日から夏休みが始まるという盛夏の中、1人も欠けずに第68回の江戸川区廃棄物減量等推進審議会を開催できることを大変うれしく思っております。また、この暑い中でも、この時間帯が一番暑いんですけども、なぜかこの時間帯にいつもやっているということで、本当に申し訳ありません。検討の余地があるんじゃないかなと思いますが、いずれにしましても、これからまた、去年にも増

して十何年ぶりに暑い夏が来るということでございます。

廃棄物ということで言いますと、今、この暑い中でも収集運搬をしていただいているエッセンシャルワーカーとしての収集員の皆様、リサイクルをやってくださっている皆様が働いているということをお我々も大変感謝しておりますし、何かそれを支えられることができるとということで、ファン付きのベストをこの夏、導入させていただいております。一部ちょっと導入が遅れていて申し訳ないんですけども、鋭意努力しておりますので、ぜひ体調に気をつけていただいて、作業に従事していただければなというふうに思いますし、ここにお集まりの皆様も、まずはこの夏、無事に乗り切るということを第1の目標にさせていただいて、御無理をせず、クーラー等を使いながら過ごしていただければと思います。

私ども、見ていただきますと、ノーネクタイだけじゃなくて、ノージャケットということで上着も外しておりますので、ぜひ皆様も上着を脱いでいただいて、審議会に参加していただければと思います。

前置き長くなりましたけれども、今回、第12期の審議会でございますけれども、本日が2年間の締めくくりの日ということになってございます。この廃棄物減量等推進審議会は平成12年8月に第1回を開催いたしまして、24年間、滞ることなく続いている大変江戸川区の中でも由緒ある審議会でございます。今回で68回目ということになります。第12期の皆様におかれましては、特にコロナ禍の会議であったということもありまして、大変御不便おかけいたしましたし、御心配もおかけしたかなというふうに思いますが、この2年間、本区の清掃事業について貴重な御意見等を賜りまして本当にありがとうございました。

最終日の本日ですけれども、事務局から報告事項として4点御説明をさせていただきます。詳細については後ほど御説明いたしますけれども、特に製品プラスチック回収の導入に関わる内容や災害廃棄物処理計画の改定についての報告など、今回も非常に本区にとって重要な廃棄物の関連の施策についての皆様の御意見聴取ということになりますので、ぜひ関連な御意見をいただいて、我々の施策に反映したいなというふうに思っております。

委員の皆様のご貴重な御意見を賜りまして、いつものように、よりよい区政を目指していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私からは以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局（久保課長）】

ありがとうございました。

それでは、本日の当審議会でございますが、傍聴者は、事前に傍聴の御希望の方が1名お声がけいただいているんですけども、まだ現在お見えではないということで、お見えになりましたら、また少し御案内を差し上げたいと思うんですが、現状はすみません、0人でございます。

それでは、岡島会長、本審議会の進行をどうぞよろしくお願い致します。

【岡島会長】

それでは、ただいまから第68回江戸川区の廃棄物減量等推進審議会を開会いたします。

事務局より先に御紹介いただきましたけれども、新委員になられました所議員、岩田議員、よろしく願いいたします。

本日の議事は、今回12期、先ほど部長がおっしゃっていましたが、任期が8月ということで、この委員で行う最後の審議会になります。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の議事は報告事項4件で、大事なことなんですけど、気持ちとしては議決審議をしなくて済むので、皆さん気楽にいろいろな御意見を寄せていただければと思います。

初めに、報告事項の1の令和5年度のごみ・資源量についてです。事務局から説明をお

願います。報告をお願いします。

【事務局（金子係長）】

それでは、清掃課庶務係、金子から報告をさせていただきます。

報告事項の（１）令和５年度のごみ・資源量について速報値でございます。本日、机上配付させていただきました資料３、令和５年度のごみ・資源量についてを御覧ください。

まず、上段の表でございますが、これは江戸川区で収集しているごみ量と人口の推移です。人口につきましては、清掃事業が東京都から２３区へ移管された平成１２年度と比較すると、人口は６万人弱増加していますが、直近では６９万人前後で推移している状況です。

一方で、この表の真ん中辺りにございます区収集ごみ量合計は、令和５年度１１万５、１６７トンでした。移管当時の平成１２年度比で約４万８、０００トン、令和４年度比で約５、０００トン減少しました。新型コロナウイルス感染症の流行によるステイホームの影響で令和２年度に急増したごみ量ですが、令和３年度にはコロナ前を下回るごみ量となり、以降も順調に減少しております。

資料中段の区民１人１日当たりの収集ごみ量につきましては、例年ですと、冬の審議会でお伝えしていたところですが、前回の審議会で判明している数値はいち早く御報告いただきたいと意見を頂戴しておりますので、これを受けて載せさせていただいたものでございます。

こちらの表のとおり、令和４年度比でごみ量が約５、０００トン減少した結果、令和５年度の区民１人１日当たりの収集ごみ量は４５７グラムとなり、ごみダイエットプランで掲げていた４６０グラムという目標を８年前倒しで達成することができています。皆様方の御尽力、御協力なくして達成できなかった目標でございます。改めて御礼申し上げます。ありがとうございます。

ごみが想定より大きく減量した要因としましては、大きく３つあると分析しているところでございます。１つ目が、区が実施するごみ減量に関する施策の効果でございます。皆様方から御意見、御助言をいただきながら実施した各施策が実を結んでいると感じているところでございます。

２つ目が、１つ目と関係しているところでございますが、SDGsの普及でございます。本区でも専門の部署を設けて啓発等の取組を推進しておりますが、皆さんも至るところでSDGsという言葉を目にするようになったかと存じます。持続可能な世界を目指すSDGsという考え方が普及したことで、各方面でプラスチックに対する考え方が見直されたり、食ロスへの取組が行われたりしているところでございます。その結果として、ごみ量が減少していると考えているところでございます。

３つ目につきましては、経済的な動向でございます。近年の物価上昇に伴い、実質賃金が過去最長の２６か月連続でマイナスになっている報道もございますけれども、そちらのほうがまず要因と考えてございまして、実質賃金の低下というものは、国民の買力力の低下と捉えることができます。実質賃金の低下により起こり得る買い控えなども、ごみの減量と間接的に関係していると分析しているところでございます。

今回は速報値ということで、詳細な分析はまだこれからというところでございますが、例年実施しているPDCAサイクル実施時にはより詳しく分析できればと考えてございます。

また、区民１人１日当たりの収集ごみ量が目標を達成できたことを受けて、ごみダイエットプラン改定に向けて準備を進めているところでございます。次回以降の審議会に皆様方に御提示できればと考えているところでございますので、改めてどうぞよろしく願います。

続いて、表の下部、下のほうの資源量合計でございます。令和５年度は約３万８１５トンと、前年度と比較して約１、２６８トン減少しました。令和２年度は、やはりこちらも新型コロナウイルス感染症がはやり始めて、外出自粛、ステイホームの影響などにより回収量が増加しましたが、以降は減少傾向となっております。令和５年度回収量が減少し

た要因としては、外食消費の回復や社会的な過剰包装の自粛傾向などによるものと考えられます。

また、内容を見ていきますと、家庭から出た資源を地域団体が集めて資源の再利用を行う自主的なリサイクル活動、集団回収と申しますけれども、この集団回収についても回収量が減少しています。このことは、集団回収を行う団体数の減少や、新聞や雑誌を紙媒体で購読する方が減っていることが影響していると考えております。

こちらの資料の説明は以上でございます。

【岡島会長】

ありがとうございました。

これに関して御意見、御感想、御質問あればどうぞ。よく江戸川区民頑張ってくれたということです。どうぞ。

【大和委員】

大和でございます。どうぞよろしく願いいたします。今回最後だということで、またいろいろ御質問させていただきたいと思っております。

要は、この中段のところにある推計値、目標値、そして実績値という数字に関して、当初の目的であった460グラムを既に昨年度クリアしたというところで、それに関して3つばかり、その原因とか理由というか、そのあたりのお話があったかなというふうに思っております。

ただ、言い方を変えてみると、失礼な言い方かもしれないけど、見通しが甘かったということも言えるのではないかなというふうに感じております。ただ、令和13年度の数字をクリアしたということですので、これは喜ばしいことだなと。ただ、では今後、クリアしたから次、当然、目標値を見直す必要があるだろうと私は思っております。今後、令和13年度に向けて数値の見直し等について御説明をいただければなと思っております。以上です。

【岡島会長】

御回答をお願いします。

【事務局（金子係長）】

事務局より、そうですね。まず、見直しの数値につきましては、もちろん経済トレンドでありますとか、あとは、今こういった減少の見込み以上に減っているところ、本当に数値化、表でも分かるとおりでございますので、今、推計のほうは本区におきましても検討中でございます。大和委員さんおっしゃるとおり、こういった見通しも、今後のごみ減量施策なども含めて考えていきたいと思っておりますので、また、こういった御助言、御意見等をいただければ大変ありがたく思っております。

【岡島会長】

ありがとうございました。今、補足、議長として、見通しが甘かったよりも区民が頑張っているというほうが正しいかと思えますよ。これ、各区といろいろ調整して、全部やった結果で、その中でも強い目標を掲げたわけですから、それをさらにはるかに下回ったというのは、目標は誤っていないかと私は思っておりますけれども。

【大和委員】

それは否定しているつもりは僕は全くないので。

【岡島会長】

そういうことではないので。むしろ、ただ、ここまでやったんだから、もっとやれるだろうと。13年に向けて、数字をもっと厳しく、厳しくという言葉は悪いけど、頑張れるようにやれるんじゃないかというエールとして受け取っておけばいいかと思えます。まだありますか。

【大和委員】

すいません、私が、理解が甘かったかもしれませんが、要は13年度に向けての新たな目標値を設定するお考えがあるかないかということをお聞きしたつもりなんですけど。

【事務局（久保課長）】

ありがとうございます。お答えします。13年度につきましては新たに目標を設定したいと考えております。現状の460グラムにつきましては、当時大体1割くらい減少したいということで定めた設定値でございます。それがコロナであり、高齢化であり、人口減であり、様々な要因でかなり急に減ったというところがございます。同じく10%にこだわらず、そういった情勢を踏まえて、どの減額が正しいのかというところをもう一回再設定したいと考えております。ありがとうございます。

【岡島会長】

よろしいですか。

【大和委員】

はい。

【岡島会長】

ほかにいかがでしょう。いいですか。終わってからまた最後にどうしても言いたい人に時間をつくって、最後だというから、いろいろ皆さんで御意見出したほうがいいと思いますので。

じゃ、次、お願いいたします。次は報告2ですね。廃棄物の処理計画の改正についてです。資料4、災害廃棄物処理計画の改正についてお願いいたします。

【事務局（金子係長）】

同じく金子のほうから、江戸川区災害廃棄物処理計画改定の概要について説明させていただきます。資料4のA3のものを御覧ください。

こちら、災害時の災害廃棄物処理の計画として、令和元年10月に策定いたしました江戸川区災害廃棄物処理計画がございます。こちらは環境省や東京都の計画、指針などを踏まえて、江戸川区災害廃棄物処理計画を今年度改定をさせていただきます。計画の策定、これは令和元年10月の策定以降、実は令和元年の台風第19号では東京23区内の自治体も被災いたしまして、災害廃棄物が発生するなど、近年は台風や集中豪雨の水害による災害も多発しております。水害に伴い、風水害と申しますが、発生する災害廃棄物への対応強化、また、処理の円滑化に向けた連携強化を目指して、災害廃棄物処理計画を改定させていただき経緯となっております。

こちら、3番の災害廃棄物発生量推計の改定のほうを御覧いただければと思います。左側の下の3番のところでございますが、こちら、東京都によりまして、倒壊家屋と被害想定が減少をしております。災害廃棄物の発生量の推計量が減少しております。こちら数字が変更しているというところがございます。具体的には、これまで地震災害時に瓦礫が340万トン発生するとしていましたが、194.5万トンに修正し、内訳につきましては、片づけごみが35.6万トン、解体廃棄物につきまして158.9万トンとしております。減少の理由としましては、環境省の災害廃棄物発生量計算式というものが変更になったことが挙げられております。

一方で、水害時の廃棄物量の推計量につきまして、右側のほう、3番の右側でございます。こちらにつきましては、推計量117万トンでございましたけれども、219.1万トンに修正され、内訳は、片づけごみにつきまして42.1万トン、解体廃棄物が177万トンというふうになってございます。増加した理由につきましては、今までの推計は津波による堆積物の発生量で計算を行っていたことや、あとは、環境省の指針による計算式が変わったことが挙げられております。

【江南委員】

すいません。どこのことを言っているんですか。

【事務局（金子係長）】

こちら資料の3番、概要の3番、左下の3番でございます。

【江南委員】

いや、3番は分かるんだけどさ、この地震災害というのはどこで発生したことを言っているの。

【事務局（金子係長）】

こちらは区内で発生した災害のほうでございます。

【江南委員】

江戸川区内で発生したという想定なんですか。

【事務局（金子係長）】

はい。

【江南委員】

それ書いていないから全然分からない。

【事務局（金子係長）】

すいません。資料のほう、不足して申し訳ございませんでした。

【江南委員】

頭にいろいろ書いてあるけど、この資料が江戸川区ということは書いていないよ。

【事務局（金子係長）】

大変失礼いたしました。ちょっと資料のほう、すみません、見にくい形になってしまつて申し訳ございません。

すみません。今度、右側のほうの5番目のほうにちょっと進めさせていただきます。今度5番目の中段辺り、右側のその他の主な改定事項についてというところで、こちらは水害等の発生が前もって分かる災害につきまして、発災前から収集した情報を基に、行政や事業者による廃棄物の収集、廃棄物を運ぶ体制や廃棄物を集める、仮に収集する置場など、そちらのほうを住民広報など準備することが可能となります。また、発災直前や直後3日以内に取り組み、これは職員のほうの具体的な動きなど事項を記載しております。こちらの計画のほうは今検討中のところでございます。今日お示ししております。申し訳ございません。

など、そういった片づけごみを集めることができない場合に、そういった収集の体制のほう、一時仮置場というところに運搬するような体制を取っていきたいと思っております。

あとは、最後には、太陽光パネルなどの適正困難、処理困難物の取扱いの留意点を記載をさせていただいております。しっかり再資源化を行う施設へ搬入するための分別をして保管するなど、留意すべき点を最後に付け加えをしております。まだ未完成の部分は多々ございますけれども、恐縮いたしますが、災害廃棄物処理計画の改定の概要につきましては以上となります。

【岡島会長】

分かりました、御意見、御質問。今の江南さんですか、失礼しました、読み方が分からない。御質問のように、これちょっと分かりにくいのは、改定なんですよ。だから、あるわけだね。あったものを一部改定する説明、そこがなかったから、これ新しくできた勘違いしますよね。改定と書いてあるけど。だから、そうじゃなくて、既にあるものの一部を変えてきたというお話ですね。だから、私も最初これ今作っているのかななんて思ったんだけど、既にあるものがあるって、その一部を改定するんだということですね。

そして、上の下に書いてあるけど、特別区、二十三区区清掃組合、東京都、事業者組合、これ役割で母体はどこがやっているんですか。都がやっているんですか。都と区と連携して何かできているの、この会議は。国と都と区というような形でできているわけですか。そのところ教えてください。

【事務局（金子係長）】

こちらは、国、環境省、それから東京都並びに特別区と23区、本区と、あと東京23区清掃一部事務組合と一緒に、また、事業者さん、区民さんということで、そういった組織で計画のほうは含まれております。

【岡島会長】

これ、だけど、江戸川区と書いてあるから、その全体の中での江戸川区の部分ということですね、今日の説明は。全体で作ったわけじゃなくて、東京全体の話じゃなくて、江戸

川区についての話の部分ですね。

【事務局（金子係長）】

おっしゃるとおりでございます。東京都や環境省の指針、計画を基に、江戸川区のほうの計画を本年度変えさせていただくという経緯でございます。足りなくて申し訳ありません。

【岡島会長】

先ほど御質問あったように、地震は直下型など、関東房総沖とか、その辺の地震を想定している。それから、水は江戸川、江東と比べると弱いから、江戸川のどっかの時点で切れた場合の想定ということによろしいですか。

【事務局（金子係長）】

そのとおりでございます。

【岡島会長】

分かりました。ということで、江南さん、そういうことを改定したということなんで、よろしく。

ほかにいかがでしょう。どうぞ。

【大和委員】

私もこの資料を事前に読ませていただいて、当然こういうものが作られたということで、この是非を問うつもりは一切ございません。これがいい悪いというお話はするつもりはございません。

ただ、読んでいる中で、先ほどほかの委員さんからありましたけども、これって一体どういうことなのかな、何を言っているのかなというのが、若干申し訳ないですけど、分からないところがございます。例えば、先ほど直下型地震を想定していると。でも、単に直下型地震といっても、例えばマグニチュードだとか震度だとか、それこそ3・11の規模だとか、様々なものがあると思うんです。それを一まとめに直下型地震と言われても、僕らとしては全くイメージが取れないというところがございます。

また、水害に関しても、先ほど説明の中では津波等を想定していたものが、台風等による災害だというふうな御説明があったと僕は理解しているんですけども、例えば、台風というときに、集中豪雨での冠水なのか、それとも先ほど委員長のほうからあったように、江戸川の堤防が決壊したときのものなのか。たしかハザードマップで、僕、小岩なんですけども、小岩の場合、たしか2階近くまで浸水するんじゃないか、そんな想定がされていると思います。そういうふうなところも具体的にもっとイメージが取りやすいように御説明いただけると、ありがたいかなというふうに思います。

例えば、先ほど3番のところの地震災害で解体廃棄物158.9万トンとございます。それに対して、水害のほうで解体廃棄物177。僕のイメージだと、地震のほうで当然壊れるものが多いだろうから、解体しなきゃいけないものが多いんじゃないかなというイメージなんですけど、逆になっているんですね。また、片づけごみに関しては、水害で水浸しになったほうがさらに捨てられるものが多いんじゃないかというイメージなんです。だから、この片づけごみということについても、また若干補足の説明をいただければありがたいかなというふうに思います。

もう1点ありますけど、それはまた後で御質問させていただきます。

【岡島会長】

後でって、この項目でですか。

【大和委員】

はい。長いので。

【岡島会長】

いや、いいです。一緒に言って。

【大和委員】

いいですか。申し訳ございません。若干この片づけごみというものを見たときに、1つ僕疑問を感じたんです。私もそろそろ終活を始めて、家の粗大ごみをかなり捨てている

んですけれども、私の近所の高齢者の方も粗大ごみの捨て方がなかなかうまくできない。家の中になかなか粗大ごみがある方も結構いらっしゃいます。これってよくたんす預金という話があるかと思うんですけれども、たんす預金、ふだん捨て方が分からなくて、家に粗大ごみをたくさん抱えてしまった人たち、そのところあたりを計画的に改善していくことによって、こういう天災のときに一気にごみが出ないような取組も僕は必要じゃないかな、そんなことを資料を読ませていただいて感じておりました。以上です。

【岡島会長】

ありがとうございました。順番に3つお答えください。

【織副会長】

それと合わせて回答してもらっていいですか。解体ごみと解体廃棄物と片づけごみの定義をちょっと明確にしておいて、ついでに回答していただけますか。

【事務局（金子係長）】

すいません。まず、解体廃棄物の3番の地震災害と、それから水害のほうの数字のほうにつきましても、環境省さん、東京都さんの推計値を基に計算をさせていただいて、このあたりは私ちょっと勉強不足で大変恐縮ですが、地震のときは最近耐震化が建物されていることが要因で、解体廃棄物が地震については水害よりも少ないということが分析で、資料のほう目を通させていただきました。

水害につきましても、片づけごみがなぜ多いかというところは、特に1階部分、あと、大和委員さんもおっしゃったとおり、ハザードマップによっては、それ以上の階に水が流れ込んでしまうことで、片づけごみ、織先生から御質問いただきましたいわゆる家庭の中で、水害などで、災害によって家具や小型家電などが主に片づけごみということになります。故障してしまって、使用不能となってしまった。よって、水害時は片づけごみが地震よりも想定が多くなっていることが分析として挙げられますが、現状は、今ここで終わりではなく、今後も審議会のほうではこういった要因の分析などはぜひ出させていただければというふうに思っています。

【岡島会長】

災害は、特に水害は江戸川区にとっては命取りの課題だから、簡単にお二人の方が質問したけど、国とか都が決めたことを何となく他人事だね、数式か何か当てはめると。そうじゃなくて、江戸川区は地元だから、もっと本気でやって、ごみも何も含めて、今、家庭内粗大ごみの問題もあるし、もうちょっと真剣に区全体としても取り組んでいる部分はあるんですか、ごみの部分だけはここでやると。水害対策は全体的な大きい課題ですからね。ここでやるのは出てくるごみの部分で、それも大変なことだから、やっぱり審議会というか、何かこれ上から決まってきた数式を当てはめると、こうだよという話だけど、現実に江戸川区に水が起こったら、どうしたらいいのかと。

そういったことを、プラスチックの特別部会をつくったけど、次からももうちょっと詳しく、堤防の場合、高潮の場合、何の場合とか、それから、先ほど言った震度幾つでどの程度とか、そういうところまで、区民にとってはそっちのほうの方が大事だから、数式に当てはめた数が幾らと言われても関係ないわけですよ、そんなのは。だから、そこについて、こんだけのごみが出ちゃうよという、道路も何もなくなっちゃうとか、いろんな意味での、もう少し、今じゃなくてね、今はこれ改定部分だけの改定を言ってくれたんですけど、お二人の意見も私もそうだと思うんですけど、特に水害ですよ。あした起こるか分からないんですよ。秩父に大雨が降って、線状降水帯が3日続いたら立ちどころに洪水が起こる可能性があるわけだから。これもちょっと真剣に、ごみの部会及び全体の部会、区全体としても大きな問題だと思えますけど、ごみの部会も、今、お二人のお話も踏まえて、別なチーム作ってでもいいような感じじゃないかと思うんですけど、天沼さん、何かお話ししたそうだったけど、どうぞ。

【天沼環境部長】

座ったまま恐縮です。区全体としても、実は実質的には去年から水害にどう対応するかという話が始まりまして、BCP計画もようやく去年、水害対策計画として取りま

とめられまして、これは23区どこもそれほど突出して進んでいるところはないんですけども、この8月の2日ようやく第1回目の初めての水害に対する防災訓練を、職員防災訓練をやるような何とも情けない状況でございまして、清掃のほうも、清掃というか環境部のほうも廃棄物処理計画、これ基準に沿って数値改定していますけれども、皆様御指摘のとおりでございます。

今、例えば粗大ごみを計画的に廃棄していくようなことをしなくちゃ駄目だろうなというのは、本当にはっとさせられるような指摘でございまして、これからこの廃棄物減量等推進審議会でも災害廃棄物の処理計画、丁寧にさらいながら、令和元年に作られましたので5年たっていますので、この部分も新委員さんとともに検討していきたいというふうに思います。

未消化で中途半端な資料を出してしまって誠に申し訳ないです。反省の上で、次、課題として努めてまいります。すみません。

【織副会長】

ありがとうございます。これは非常に重要な問題で、区民の皆さんもすごく関心が高いところなんです。それで、一番ポイントになるのは、災害廃棄物処理のフローが変わったことがどういう意味があるかという、ここを重点的に説明をなさる必要があるんですよ。要は、今まで一括して解体と片づけごみを一緒にやっていたものをあえて分けるというのは、これは一次仮置場の存命と一次仮置場の対応がうまくいけば、その後の復興に大きく異なるという、こういう背景があるわけですよ。なので、一次仮置場をどこに設置して、どこまでその残量をきちっとしていくのか、そのときの状況をどうするかということが最重要なわけですよ、何にしても。そここのところ対応するのは現行のフローじゃ駄目という、そういう想定があって、こういう流れにしました。そういう説明がないと分からないんですよ。

多分、私はそういうことだろうなと思うんですけども、仮置場をきちっと動かしていく、そのために、逆に言うと区民ができることは何かということなんです。水害廃棄物が出てきたときに、片づけごみと解体ごみをどうやって分けていくのか。そのときに区民の労働も必要になるということも、この災害廃棄物計画の中には入れ込んでいなくちゃいけないわけです。行政任せじゃなくて、区民がやるべきことというのは今の段階でも分かるので、そういうのも含めて、岡島先生おっしゃっているように、もうちょっと、これすごい重要なテーマです。特に水害は江戸川区にとっては他人事ではない、極端に言えば必ず発生するものと考えて、区民もその廃棄物をどうするかという問題意識が必要なので、ぜひここは別箇重要な、慎重に議論していただきたいなと思います。

【岡島会長】

どうぞ。

【江南委員】

今後検討されるということなんであれば、左側の上から2段目の右、災害廃棄物というところの定義だと思うんですけど、片づけごみと解体廃棄物、これはこの3の資料に載っかっているんですが、その下の道路啓開・救助搜索活動に伴う発生する瓦礫について何の説明もないし、右側のフローについても、そのものについては全く載っかってきていないんですよ。これはどういうことでしょうか。

【事務局（金子係長）】

まず、道路啓開で、それから救助搜索活動に伴い発生する瓦礫につきましては、道路上に出てくる水害などによって出てくるコンクリート殻であるとか倒壊した家屋のものでございまして、そちらのほうの説明もなく、フローのほうも説明がなく申し訳ございませんでした。

【江南委員】

道路啓開なんて聞いたことない。啓開ってそういう言葉、専門用語であるんだと思うけど、啓開ってどういう意味ですか。この啓開という意味は。

【事務局】

すみません。

【林委員】

環七と京葉道路、こちら災害時における緊急物資輸送路になっておりますので、当然、管轄の消防署、警察、一般の交通を遮断して、全ての緊急車両を通すという計画で消防庁がやっておりますので、ただ、そういった意味で啓開という部分が出てきていると思います。

1つ、私思ったのが、先ほど言った一次仮置場、こちらなんですが、多分、河川敷等を考えていると思うんですが、我々消防団のほうでいくと第7方面というんですが、こちらのほうは地震の場合、橋が落ちて、物質搬入路が全て河川敷から搬入しようという想定訓練もずっと何年前からもやっておりますので、そういう部分も消防署、3消防署、江戸川区ありますので、協議してもらえば、防災室もございますから、そういうことで、いろんな意味で、親水公園もいっぱいありますから、内水氾濫というのも想定できますので、いろんな意味で江戸川区というのは災害に対しては考えておかないと、あると思います。

区の総合防災訓練も毎年やられているので、そこに提案されたらどうですか。今までは救助活動を中心に、あと、ガス、ライフライン復旧、江戸川区さんの職員さんの動きとプラス、そこに災害ごみ、水害でも地震でも、その想定を区の総合防災訓練年1回やっていますから、入れていただければ、ある程度変わってくるんじゃないですか。

【岡島会長】

全体計画が分からないからね、一般の人は、今おっしゃった、林さんがおっしゃったことなんか知らないでしょう、普通の人。だから、そういうのも含めて少し、特に審議会では皆さん各界の代表の方がいらっしゃるんで、ちょっと説明する時間もあるからいいかと思えます。

【織副会長】

いずれにしても、今回の資料では皆さんのニーズにも応えられないと思うんで、資料を作成し直して、もう一度開催するのは難しかったら、また別の機会でもいいですけど、御説明いただくというほうがいいかと思えます。今、多分矢継ぎ早にいろいろ質問されても、この資料では対応できないということは明らかなんで、そういう形で御対応いただくというのはいかがでしょうか。

【事務局（久保課長）】

申し訳ございません。本日の資料、説明差し上げるには不足があったと考えております。御説明、また、御理解いただける資料として改めてお出ししたいと思えます。

【岡島会長】

よろしいでしょうか。どうぞ。

【齋藤委員】

こちらに5番のところで太陽光パネルなど適正処理困難物となっているんですけども、今、太陽光パネルは処理困難物ではないです。リサイクルをされている部分があるので、この辺のところもう少ししっかり調べて、太陽光パネルは困難ではないということで削除していただければと思います。

【事務局（金子係長）】

しっかり調べて、そのあたり次回の修正させていただきます。

【岩田委員】

御説明いただきまして、ありがとうございます。先ほど織先生のほうからも、この災害廃棄物、区民の皆さん大変関心が高いと。このテーマだけで恐らく2時間3時間、時間が必要なんじゃないかなというぐらい関心は高いということが言えると思うんですね。この災害廃棄物のスムーズな処理を行うためには、災害が発生してから2日ないし3日が勝負ということが言われております。つまり、この災害が発生してから2日ないし3日でこの災害廃棄物の仮置場を設置しなければいけないということになるんだろうというふうに思うんです。

災害というのは何よりも備えが大切になりますので、こういったちょっと言い方がどうかと思うんですけども、頭の中でシミュレーションをしておくというのはもちろん必要なことだとは思いますが、先ほど林委員がおっしゃったように、私はやはり実践的な訓練、つまり、災害廃棄物の仮置場の設置訓練、これが私は必要になってくるんだろうというふうに思います。

林さんのほうからも紹介がありましたけれども、江戸川区では防災訓練、水害訓練、これかなり大規模なものを毎年実施しておりますので、こういった訓練の中に災害廃棄物の仮置場の設置訓練を組み込むということも私は可能だと思いますので、これ今の答えは求めませんけれども、ぜひ、こういったシミュレーションも大切になりますけれども、実践的な訓練、これもセットでぜひ区として、我々もちろん区議会もそうですけれども、一緒になってここは考えていかなければならないと思っておりますので、実践的な訓練の場を設けるといっても私は必要になってくると思っておりますので、ぜひ一緒になってここは検討していきたいというふうに思います。以上です。

【岡島会長】

ありがとうございました。織先生、岩田先生あたりのことが結論になるかと思うので、これを基に、今日の意見を基にしっかりとまた、全体の計画の中のある部分ですよね、廃棄物。それを全体計画のイメージ、図でもいいんですけど、その中のこの部分を廃棄物委員会としてやるんだ。置場の問題そうだし、そういうことを明確にターゲットを絞って、具体的な方法論、最終的には訓練で仕上げるといようなことまで説明できるように、皆さんで他部署と連携しながら、また、その中に、先ほどお話がありましたように、市民の参加の役割と義務みたいなものも、義務という言葉がきついかも分からないけど、当たり前なことなんですけど、住民・市民の力というものも活用する部分、そういうのも踏まえた上で、暑いので申し訳ないんですけど、夏休みの宿題として少しやっていただければと思います。よろしくをお願いします。

それでは、次に移りたいと思います。不用品リユースの進捗状況について、御説明をお願いいたします。

【事務局（金子係長）】

失礼いたします。不用品リユースに向けた進捗状況についてということで、こちら過去の審議会でも、今後、区民の要らなくなった不要品をリユースする、そういったスキームを取っていければということで、そういった不要品リユース推進の取組ということで、こちらの資料の5番を御覧いただければと思います。

こちらにつきましては、不用品リユースについては今年度ちょっと具体的な動きがございましたので、御報告をさせていただきます。5月に区のホームページで御協力いただける事業者を募り、書類審査、ヒアリングを経て、1社と協定を結ぶ運びとなりました。会社につきましては、事業者様は株式会社ジモティーさんでございます。

こちらは、パソコン、スマートフォンを用いて地域の情報を誰でも何でも無料ですぐにといい、掲載することができる会社さんでございます。サービスの内容につきましては、処分をしたいものがある方がジモティーのサイトに写真などを掲載いたします。そして、このサイトを見た人が、パソコンやスマートフォンのアプリケーションなどで見た方が申し込むと、ジモティーを介して、処分した方と申し込みたい方、欲しい方とやり取りができるようになります。その後、お互いに渡す場所などを相談して、譲渡が成立するものでございます。

事業概要としましては、資料のとおり、区ホームページの粗大ごみの案内のところ、こちらにジモティーのホームページへのリンク先を掲載し、粗大ごみを申し込む前にこちらのサービスを御活用いただくというものでございます。

今後のスケジュールとしましては、こちら下の3番でございます。まず、8月に協定締結、9月から事業を開始の予定でございます。協定締結につきましては、区のほうは、まず、3RやSDGsを推進できるメリットがございます。事業者さんのほうは区のそういったホームページにバナー広告掲載があると、あとは地域の人を結びつけるこ

とができる、いわゆる口コミ、そういった効果もございまして、宣伝効果が生まれてくるといった形でお互いにメリットがございます。

3番のスケジュールの粗大ごみなどの廃棄物削減量につきましては、こちらはバナー広告を通じてアクセスした区民の方の不用品取引成立料等をお伝えする予定でございます。昨今、リユース関連の同様の事業は様々な会社によって展開されている状況があるため、区としましても、今回1社にとどまらず、事業を拡大していきたいと考えてございます。

御報告のほう、資料の御説明は以上でございます。

【岡島会長】

ありがとうございました。新しいインターネットを使ったやり方だと思うんですけども、どうでしょうか。これに関して御意見、御質問等ありましたら、お願いします。ないですか。

ジモティーは一般でもできますよね。区でやると、また一般で勝手にやるのとは違った効果が見込まれるということですか。

【事務局（金子係長）】

1回粗大ごみを申し込む資料のイメージ、実際に申し込もうとする方に一度ストップをかせさせていただく。もちろん、自分でアプリケーション持っている方もいらっしゃるんですけども。

【岡島会長】

捨てる前にちょっと考えて、役に立つかもしれないよという、そういう効果がある。

【事務局（金子係長）】

そういう効果がございます。

【岡島会長】

不要ででかいのが出てくると、運ばなきゃいけないですね、区の費用で。分かりました。

どうぞ。

【大和委員】

ありがとうございます。これも報告事項なので、私のほうから是非を問うつもりは全くございません。ただ、私なんかの年だと、このジモティー使ったことないものですから、使ってみようかなと思いつつも、まず最初にトラブル起きたらどうしようかなという心配が起きるんです。要は、江戸川区役所が間に入るということで、トラブルが起きた場合のセーフティーネットというか、そういうことについてどのようなお考えがあるのか、それが1点。

もう1点なんですけれども、今回ジモティーさんが採択されたということで、この事業者というのは一度採択されたらずっと永久的に関わりがあるのか、それとも、2年後、3年後ぐらいに見直して、その事業者を続けられるかどうかという判断をされるのか、そのことについて教えていただきたいと思います。

【岡島会長】

よろしく申し上げます。

【事務局（金子係長）】

1点目のトラブルにつきましては、ジモティーさんに営業さん、電話がつながる窓口をつないで用意していただいておりますので、何か起きた際にはそちらに区民さんで、例えば物が届かない、それからお金が入金されないなどあった場合は、もし売買される場合は、すいません、入金トラブルもあっております。そういった場合には専用の窓口を設けることで、そちらのほうで、区では対応はできない旨は事業者さんに説明してございます。

2点目につきましては、期間につきましては、こちら具体的に何年とは決めておりませんが、ずっと永遠に締結ということは考えておりませんので、年度は検討になりますけれども、考えさせていただいております。

【岡島会長】

ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

【齋藤委員】

子供服とか洋服、これなんかだと区内にある、多分捨てないなと思っている人たちはすぐ処分したいなと思っているはずなので、例えば、江戸川区にあるリサイクルショップとかチャリティーショップ、こういったところを紹介してあげるといことも、要は本当にすぐに捨てたいんだけど、でも、やっぱり捨てるのはどうかなと思いとどまる人もいると思うんですね。そういったときに、近くのチャリティーショップとかリサイクルショップとかに持ち込んだほうがいいよみたいな情報を流してあげると、またみんなそういうところ持込みやすいのかなというふうに思います。

【岡島会長】

これだけじゃなくて、いろんな方法で不要品を再利用しようという運動はもともとやっているんで、できたらこのジモティーさんのサイトでも、できるかどうか分からないけど、近くにあったら、そっち持っていきなさいみたいなものがあると、持っていけというんじゃないで、いろんな種類がある中でジモティーはこうやっていますというものがちょっと入っていると親切かもしれないですね。

ほかにいかがでしょうか。やっぱりインターネットやりにくい人もいるからね。その辺のところ、ジモティーさんのほうで、あれインターネットできる人が説明しても分からないんだよね。インターネット分からない人が言ってくれないと。片仮名ばっかで全然ついていけないこともあるし、1個間違えると駄目でしょう。人間だったら1個間違えても大体やってくれるじゃないですか。それがどうしても腹が立ってきてね、やっているうちに切っちゃうんですね。その辺のところを、ぜひ若い世代が増えてきて、何の苦もなくインターネットが使えるれば大変効果があるんだと思いますので、できない人のやつもどうか少しやっていると、私ぐらいの年は助かるんですけど。

どうぞ。

【戸嶋委員】

ネットでできる人とできない人の差が分断され過ぎちゃっていると思うんですよ。どうせ江戸川区が入るとい形なんであれば、何かその間を埋めるようなシステムみたいなものを作って、もうちょっと出しやすい、やっている人は既にネットで勝手に自分でどんどん売ったりしていますので、ジモティーがこれで江戸川区と連携したからといって増えるとも考えづらいので、その間に入る。年寄りの人は絶対できないですし、そういうシステムをもうちょっと考えて、せっかく江戸川区が入るといことであれば、そういう部分をもうちょっと入れられるような形になったらいいなと思います。

【岡島会長】

本当にぜひただけど、電話でも受け付けてくれると、私でもね、それをジモティーにつなげてくれるとか、ジモティーにそう言って、電話番号を置けと言ったら駄目かな。だって、年代が全然違うんだよ。多分、係長なんかはずいずいできる世代で、何でこんなことで怒られるのかなと思っているか分からないけど、私のようにじじいになってくると大変なことなんですよ。

【松川委員】

すごく分かります。

【岡島会長】

今日は平均年齢が高いから。

【松川委員】

周りがほとんどその年代だから、たんす、家具でも、さっき大和さんがおっしゃったように、そういうものを持っていらっしゃる家庭がすごく多くて、そして処理に困っている。大和さんおっしゃっている、私本当に感じちゃったんですけど、周りがそんな感じなんですね。このジモティーさんがもしもうちょっと一般化して、先生おっしゃるように電話でもかなう、もう一人の方おっしゃったように、中間的な役目ができて、そうしたら

すごく喜ぶかなって、今、内心すごく思っていました。

【岡島会長】

ありがとうございます。年寄りの悩みも聞いていただいて、参加できるようにうまく誘導していただければありがたいと思います。

ほかはどうでしょう。どうぞ。

【林委員】

どうしても売り買いの話でやっていってしまっているなという部分があるので、1つ私のほうから提案なんですけど、たまたまこの前、赤十字の元職員の方がうちに純綿、綿の布団をリサイクルして、武蔵境のいわゆる養護施設、赤十字の養護施設なんですけど、そちらでは物が足りないという形で、直してやって、布団を持っていった経緯があるんですけど、子供服とか何かお子さんのそういうものが急遽必要であれば、そういう養護介護施設のほうの寄附系統にこういうリユース的なものを広めてあげないと、なかなか寄附という形になると知らない方も多いので、そういう取組も1つ、売り買いだけでなく、養護施設等の保管というかね、そういう形で助けてあげるという形も1つ頭の中へ入れておいていただければ、ごみの減量にもつながると思います。よろしくお願いします。

【岡島会長】

ありがとうございました。役所の方は一言言ったら3つぐらい返ってきて、大変かもしれませんが、これも応援と思って頑張っていたきたいと思います。

それでは4番目、製品プラスチックの回収実施に向けた方向性について、説明をお願いします。

【事務局（井上係長）】

こんにちは。資源循環推進係の井上と申します。よろしくお願いいたします。

本日は、報告事項(4)番、製品プラスチック回収導入に係る検討部会の実施報告について説明させていただきます。資料6、製品プラスチック回収導入に係る検討部会の実施報告を御覧ください。

こちらのほうは、今年の2月、審議会におきまして、回収実施に向けた方向性について説明させていただきましたが、先ほど、その際にもう少し丁寧に議論していくことということで、分科会の開催について提案をいただいた経緯がございます。6月にこちら検討部会を開かせていただいたんですけども、いろいろな御意見をいただきまして、最終決定には至っておりません。また改めて部会を開くというような形で6月の部会は終了させていただきまして、こちら6月の検討部会、今日は報告をさせていただきますと思います。

まず、検討部会なんですけれども、6月24日月曜日に開催させていただきました。すいません、資料には27日と記載しておりますけれども、誤りでございます。申し訳ございません。

検討部会の委員の皆様ですが、織先生を部会長として、資料に記載されております皆様にお集まりいただきまして、3番目の当日の検討事項について、活発な御議論をいただいております。

当日の検討事項でございますけれども、大きく2つございまして、1つは回収方法、もう1つは回収品目でございます。

(1)番の回収方法については、の容器包装プラスチックとの一括回収。番で、容器包装プラスチックとは別に回収する分別回収。は区民の方に直接持ち込んでもらう拠点回収の3つの回収方法で検討を行いました。

併せて、回収量増加によりまして車両台数が増えることから、CO₂の排出量につきましても判断材料の1つとして捉えております。CO₂の排出量の計算方法につきましては、資料に記載させていただきました。

続きまして、(2)番の回収品目でございますが、番のプラマークがなく、30センチ未満の全てのプラスチックでできた製品を回収。また、番のある程度製品を指定して回収する2つの方法で検討させていただきました。

続きまして、次のページになります。続きまして、4番の江戸川区での製品プラスチック回収方法(案)でございます。回収方法につきましては、拠点による常設回収を行い、回収拠点については、公共施設のみならず、将来的には民間施設での回収も目指していきたいというふうに考えております。

回収品目につきましては、物から物へリサイクルしやすく、単一素材でできている資料に記載の15品目を軸に検討させていただきました。ただ、これで終わりということではなくて、回収品目の追加も引き続き検討していきたいと考えております。

また、資料に記載させていただいておりますけれども、一辺30センチ、いわゆる粗大ごみとして扱われる製品の回収についても引き続き検討していきたいと思っております。

続きまして、5番の区検討部会の委員さんから出た主な意見でございます。回収方法につきましては、記載のとおり意見は出ましたけれども、おおむね拠点回収でとの意見でございました。回収品目については15品のみならず、幅広く検討するようにとの御意見もいただいております。その他の意見につきましては、資料に記載のとおりでございます。

次のページになります。続きまして、江戸川区での製品プラスチック回収スキーム(案)を御覧ください。こちらのほうなんですけれども、一番、消費者から分別排出された製品プラスチックを一番の江戸川区が収集運搬して、中間処理業者に引渡しをします。一番、中間処理業者は圧縮梱包、いわゆるバール化して、再商品化事業者に引き渡すこととなります。一番、再商品化事業者はリサイクル再商品化を行って、江戸川区へ引渡しをすることとなります。江戸川区といたしましては、集めた製品プラスチックの目に見える形でのリサイクルを目指していきたいというふうに考えております。

次のページになります。続きまして、製品プラスチックを回収・リサイクルできる主な商品でございます。写真で載せさせていただいたんですけれども、現状では、製品プラスチックを回収しますと、こちらの資料に挙げられております物流用のパレット等のものにリサイクルされることにとどまっておるんですけれども、各事業所の中でも、文具や雑貨といった身近な再生品にリサイクルできないか、研究が進められているとも聞いておりますので、江戸川区ではこうした動向を見極めて、リサイクルして、できた再生商品についてもこだわっていきたいというふうに考えております。

続きまして、次のページです。江戸川区が目指す再商品化物、こちらも案なんですけれども、御覧ください。こちらはあくまで案でございますが、資源回収用のコンテナであったり、定規といった、先ほど申し上げましたとおり、目に見える形でのリサイクル、また、区民に還元できる形でのリサイクルを目指していきたいと考えております。

最後になりますけれども、次のページお願いいたします。区内のプラスチック店頭回収の状況でございます。こちら、委員の方からも、織先生からもいただいたんですけれども、いろんな店舗でもこういった回収事業をやっているのもPRしていったほうがいいんじゃないかということで、こちらのほうで、申し訳ない、清掃課のほうだけで調べた状況なので、ほかにもあるかもしれませんけれども、こちらのほうの周知も併せて今後周知していきたいというふうに考えております。

説明については以上でございます。ありがとうございます。

【岡島会長】

ありがとうございます。織先生、何か補足事項があれば。

【織副会長】

委員で参加してくださった皆さん、どうもありがとうございました。とても活発な議論が行われたかと思っております。委員で参加していらっしゃらない方はちょっと分からないと思うので、ちょっと概要をお話しさせていただきたいと思っております。

今、江戸川区のほうでは容器包装リサイクル法の回収を行っているので、家庭から出てくるPET、アルミスチール、その他プラスチック、紙製容器などは回収されてリサイクルで回っています。プラスチックについては、PETとその他プラスチックという形で回収されているんですけど、これはあくまでも容器なんです。容器なので、何かを入れ

でいて蓋を閉めているものというか、容器とかレジ袋とか、そういう包装なんですけども、おうちの中ではプラスチック製品が今たくさんあって、コンテナですとかプランターですとか、桶ですとか、おもちゃですとか、いっぱいあって、これは前から何で容器だけプラスチック集めて、ほかの家にあるプラスチック製品、廃棄物集めてリサイクルしないのかという話はずっとあったわけですよ。

今般、環境省のほうで、国のほうでプラスチック資源循環促進法という法律をつくって、各自治体で容器以外のプラスチックも容器と一緒に集めてもいいし、自分たちで独自に容器以外のプラスチックを集める場所を作って、集めてもいいし、全く別個のルートを作ってもいいですよという、そうした場合に廃棄物法の規制、産業廃棄物処理業の業務許可が不要だという、こういう法律を作ったわけです。

各自治体、23区の中でいろいろ、やっぱり製品プラスチックもリサイクルしようという動きがある中で、多くの23区、ほかの区は容器包装、つまりPETとかその他プラスチック容器と一緒に、例えばプラスチック傘ですとか、桶ですとかを集めるという形の仕方を導入しているのに対して、江戸川区は拠点回収ということで、図書館とか公民館とかそういうところに自分で持って行ってやりましょうというのを提案しているということです。

今回の委員会では、回収方法どうしますかということとをみんなで話し合うのと、そこで集めるものを何にしましょうかということ話し合おうという委員会だったんです。拠点回収、まだこちらが決めるわけではないんですけど、拠点回収が皆さんの中ではいいんじゃないの、一括回収するよりも拠点回収を江戸川区で頑張るといふなら、それはそれでいいんじゃないかということです。

ただ、江戸川区が示されたCO₂の排出量が削減するというデータの根拠がいま一つちゃんとしていないので、もうちょっと数値を精査して、本当に温暖化対策にどれぐらいあるのか、メリット・デメリットもうちょっときちっとしたデータないと、ほかの人に説明できない。委員には納得しても、それをほかの区民の方に説明できないよねというところが1つです。

それから、何を回収するかというのは結構難しく、何から何まで全部回収しても、リサイクルできないものというのはたくさんあるわけです、プラスチックの場合。やっぱり同じような素材で、集めやすく、そういったものは逆に江戸川区のリサイクル業者に意見聞かないと分からないし、逆に、区民の皆さんにどれぐらいのものがプラスチックで、自分たちの周りで捨てるのもったいないなと思っているかとか、そういうことをもうちょっとしないと、この委員会のメンバーだけで決めちゃうというのはちょっと怖いなというか、あんまりちゃんと区民の反映、ですから、お願いをしたのは、区民とかいろんな形で、委員の方にも周りに聞いてくださいと。どんなものがプラスチックとしてリサイクルしたらいいんじゃないのとか、よく出ているよねというのがあるのか。

それを一方でリサイクル業者の方に、これだったら集めてリサイクルしやすいよねとかというものをやって、品目は決めるべきじゃないかということで前回お話をしているので、一応、参加した皆さんには、皆さんの周りでどんなものがプラスチックとして出てきているのか聞いてくださいねということで、イトーヨーカドーさんも来ていただいていたので、そちらも聞いてみるということなんですけど、何かそもそも用語が分かりにくいから、普通のアルバイトの方とかに聞いてもちょっと分かりにくいから、もうちょっとそれも分かりやすい形で、製品プラスチックって何ということがあるので、家から出てくるプラスチック、家で使われているプラスチックで捨てるのもったいないなと思うもの、どんなものありますか、たくさん出てきているものってありますか。できれば、この委員会で、ほかの委員の方にもぜひ周りとか議会でも聞いていただきたいなと思うんです。

それを今投げている状態というふうに理解しています。それをもって、8月30日に資料をベースにしながら議論していくということにしたいなと、そういう流れです。

【岡島会長】

いつまでやるんですか。決まっているんですか。

【織副会長】

取りあえず8月30日に次の。

【岡島会長】

一応原案は。

【事務局（久保課長）】

6月に一度御議論いただきまして、まだ議論が必要だということで、今回、改めて8月30日にお時間をいただきまして、資料6の検討部会の委員の皆様にお集まりをいただきたいと思っております。

この8月30日なんですけれども、今回の審議会の冒頭で、この審議会の任期につきまして、ちょうど今回が最終任期、次回は次の任期の方がお集まりいただくという端境期になっております。この8月30日につきましては、いきなりまた新しい方にお集まりいただきまして議論が進まないということになりますので、できれば橋渡しとして、現行の委員の皆様と、新しく公募委員で今4人お迎えする予定でございますので、そちらの新しい方にもお越しいただきまして、ぜひ御議論いただいて、橋渡ししていただきたいという意見でございます。

今日、お話ししたいのは、新しい皆様をお迎えして、8月の30日に2回目の部会をお開きしてもよろしいでしょうかということ、まず、この場でもお伺いしたいと思っております、今、お話しさせていただきました。よろしく申し上げます。

【岡島会長】

分かりました。今の久保さんの御意見も含めて、意見があればどうぞ。今回は中間報告みたいなものですかね。織さんが勢いよくしゃべるから、つけていけないね。聞き取るのに必死になっているから。

【織副会長】

申し訳ないです。

【岡島会長】

元気に押されて、あたふたして。ありますか。どうぞ。

【江南委員】

回収スキームの案というところなんですけど、再商品化して、それをまた江戸川区に全部戻すようなスキームになっていますけど、そうなんですか。

【事務局（久保課長）】

申し訳ございません。図としては確かに全て返ってくるようなイメージになるんですけども、現状は全て区で受け入れるのは難しいと思っております。一部が、先ほど違うページで御覧いただきました、例えばですけども、今回、資源回収に使っておりますコンテナのプラスチックですとか、文房具に変わるものはあると思うんですが、全ては、すいません、区では引き受けることは難しいと思います。申し訳ございません。

【岡島会長】

素朴な質問。区がもらっちゃうの？ 区民に還元ないんだ。何か景品とか、公的なところに配るとか、そういうのもいいかと思う。方法がこれだと、出したほうにも少し何か来ないのかな。

【事務局（久保課長）】

1つは、目に見える形で再生品を贈る、プレゼントする、お渡しするというやり方があると思っております。もう一つは、拠点回収という案をお示ししているんですけども、いかにお持ち込みいただけるか、このインセンティブをどう設けるかというのもあると思っておりますので、そこはまた検討の1つだと思っております。ここに何か別途おつけするということもあると思っております。

【岡島会長】

分かりました。これこうなっているけれど、矢印が江戸川区に持っていくと、できたものがみんな江戸川区に戻ってくると思うから目に見える形でね。例えば施設に贈ると

か、なにするだとか、みんなに配るとか、何らかの形で還元すると思うんですけど、その辺も一言あればよかったと思いました。

ほかにいかがでしょう。ないようでしたら、これで終わりにして、あと、今回最後なので、今日御出席の方、端から思い残したこと、提案しそびれちゃったりしたこととか、今回の全部を通してでも構いませんから、ただ、1人10分もしゃべられちゃ困るので、1、2分程度でまとめていただければと思います。右から小野瀬さんからお願いします。

どうですか。意見あったらすいません。どうぞ。

【田口委員】

製品プラスチックの関係でもって、拠点、これ一番初めの資料6のところの3番の(1)の中に というのを書いてありますけど、これ、CO₂の廃棄が2トンと書いてあるんですけど、これは収集に来た車だけの、何というんですか、CO₂だけだと思えますけど、そこへ持っていく人たちの来る、多分車で持って持っていくと思うんで、これ2トンというのはちょっと問題があるんじゃないかなというふうに思っております。

ですから、前の1番、2番については、何というんですか、それぞれ車で動いたりなんかしてないんで、ちょっと数字でもってごまかされているんじゃないかなと、そういうふうに思いました。

それと、拠点でいくと、拠点の方たちが、何というんですか、それを保管する場所とか、そういうものに対してもちょっと問題が出てくるんじゃないかな、将来。勢いに乗っているときにはそのままやっちゃって、あとはほったらかしというふうなことになっちゃうと思うんで、ちょっと気がついたのはそんな感じだったですね。ですから、拠点でもって、この2トンというのは完全におかしいというふうなことを思います。

【岡島会長】

ありがとうございました。じゃ、また8月のときでも、なんせ委員だし、もう一度、このプラスチック検討会でこうした発言いただいて、修正いただければと思います。よろしくお願いいいたします。

それじゃ、小野瀬さんから行きましょうか。

【小野瀬委員】

瑞江の小野瀬でございます。先ほど岩田委員のほうから防災訓練についてのあれがありましたけれども、防災訓練はこれ毎年やっているわけですけども、例えば、区内で水害が来て、廃棄物が大量に出たとなった場合に、その廃棄物をどこにどういうふう処理するのかということはまだ明確に分かっていません。

しかし、それは、防災訓練の場合3,000人からの区民が見学というか、見に来るわけですよ。そういうときには、例えば道路の工事だとか、そういうものはすぐさまやっておりますけども、実際に水害があった場合に廃棄物というのはかなりの量が出るわけですね。その廃棄物をどう処理するかということ、先ほども岩田先生からもありましたけれども、防災訓練のときにこういうふうにするんだということをするれば、区民はもうちょっと安心するんじゃないかなと、そういう気がします。防災訓練はただ単に決められたことをやるんじゃなくて、そういう一歩進んだことをやることも必要だなというふうに感じておりますので、それを検討いただいたらありがたいなと思っております。

【岡島会長】

じゃ、順番に行きましょう。

【田中委員】

うちの町会で廃棄物の集団回収、集団回収団体という形で月に1回やっているんですけど、廃棄物という形で考えると、一番問題なのは家庭から出るいろんな廃棄物なんですよ。それをどう集めるかということが大きな問題で、今まではある程度、町会の役員が1か所に集めてきていたんです。そうすると、町会の役員が音を上げまして、嫌だということになりまして、業者の方に頼んで、資源回収、いわゆる区がやっている資源回収の人にその場所の近くにかかなりの回数集めるようにしたんです。そうした場合、例えば、今いろいろ議論されています、特にいろいろ分け方というかしら、プラスチックをどう分け

たらいいかと。どう出したらいいかと。それが非常に大きな問題になるのかなというふうに思うんです。

ただ、やはり減量という形でいうと、家庭から出るそういうものをどう集めて、どういうふうに役立てていくかという1つの大きな問題が現れてくるかというふうに思っているんですが、その意識をどう植えつけるかという、そんな形の中で、回収なされている業者の方々と行政の方々がいろいろ啓蒙していただいて、なおかつ、集めいように、今、例えば缶を集める、何というか、バスケットとか、それから瓶とか来ていますが、そういうものをある程度の、業者の方は、後から使えるものを分けられる、こうしたら簡単に分けられるんじゃないかという範囲の中で、出すほうも出しいいような方法を考えてもらえればありがたいかなというふうに考えています。

【岡島会長】

ありがとうございます。

【松川委員】

そうですね。いろんな問題が出て、大変難しいお話もあって、私、分からない点も結構あるんですが、ただ、私どもは女性の団体ということで、いろんなお話が出ます。こういう新しい施策をするときも、本当に分かりやすく、細かく、詳しく下に下ろしていただきたい。そうすると、我々から徐々に伝わっていくかなというような、これがお願いですね。

先日、地域で、まつりをやりましたけど、プラスチックの容器の実施をしたんですが、ちょっと皆さんに行き渡っていなかった感じで、結果があまりよくなかったというお話もありましたので、それは皆さんが知らなかったんだなと。ある位置の方は存じ上げていても、それが下に伝わらない。一番生活の中で大切なことかと思しますので、よろしくお願ひいたします。

【松原委員】

不用品のリユースのことなんですけども、私の母は障害者だったんですけども、母が亡くなりまして、その後にお風呂で使う椅子とかございまして、それを処分するに当たって介護施設さんのほうに御相談しましたところ、引き取っていただけるとのことだったんですね。それを粗大ごみに出すよりは、そういうところで使っていただいて私はよかったですなと、今考えると、よかったですと思います。以上です。

【戸嶋委員】

2年間、いろいろお世話になりました。プラスチックとか、今いろいろな課題を、今まで自分が知らなかったことをこうやってしっかりと会議の中でやられているというのを知りまして、大変勉強になりました。ありがとうございました。

ちょっと一言なんですけども、例えば、ごみ分別とかって基本的なことなんですけども、回収する、例えば江戸川区に編入されてくる方、今、中国人とか外国の方も結構多いと思うんですけども、最初に入られたときに、しっかりとそういうごみの分別の仕方とかというのをちゃんと、何というのかな、教えるというか、そういうような形にやってもらって、結構ずさんな出し方をされている方が結構いらっしゃいまして、それが外国人だからってこののでしょがないとか、そんなようなこともよく聞くので、それを入れてこられたときにしっかりとそういう教育的なことをできるようになったらいいかなというのもちよっと思いました。

プラスチックも結局、回収で持っていきたいとは思いますが、ざるとかも使えるからってずっと家に置いておくんですね、変な話。衣装ケースも全部置いているんです、壊れない限りは。ということは、例えば、その方が施設に入られるとか、そういうときに大量に出るんです。それは時間がないからって多分全部捨てられちゃっていると思うので、そういうようなものも何かうまくどっかに流れるシステムみたいなものも、具体的には出てこないんですけども、そういうシステムがあればいいなと思いました。ありがとうございました。

【齋藤委員】

ありがとうございました。先ほど子供服の寄附というお話があったかと思うんですけども、定期的に子供服の交換会というものがなされているんですね。そのほかに、教育プラザ南小岩は保育園があるので、常設して子供服の交換会をやられています。なので、教育プラザさんとか、なごみの家さんを利用して、そういった洋服の交換会なんかをやってもいいんじゃないかなというふうに思いました。

あと、実は来期も審議会のほうの募集をしたんですけど、不採用になってしまいました、まだまだプラスチックのこととか、廃棄することに関して皆さんといろいろと意見交換したかったですけども、とても残念に思って今回は終わらせていただきます。ありがとうございました。

【大和委員】

どうもありがとうございました。私はいろいろしゃべり過ぎて、第1回のときに会長からしゃべり過ぎだという御指摘を、怒られたかなというのを覚えております。

ただ、私ももともと行政職でございまして、自分自身が東京都で審議会を開催したり、また、国の審議会なんか出たりしてございましたけれども、この審議というのはどうしても結論ありきの審議会になりかねないというところは、僕はいつも審議会に参加しながら思ったところがございます。ぜひともそういうところで、そういう結論ありきの審議会じゃない、喧々諤々とした議論ができる審議会というものにしたいと思って、嫌々いろんな意見を出させていただきました。事務局の方には非常に御迷惑だったかなというふうに思っております。

ただ、一区民といたしましては、審議会にはぜひとも、中は見えないけれども、喧々諤々とした活発な審議会というものを区民は期待しているということをご理解いただければなというふうに思っております。本当にどうもありがとうございました。

【田口委員】

先ほど話すのをCO₂だけの話だったんですけど、これ品目、部会のほうでもってある程度絞り込むだろうと思うんですが、157品目ありましてね、製品プラスチックは。それを拾っていくには、大きな物から小さな物まであるわけなんですけど、できるだけ小さな物を集めて、集めやすいようにしたほうがいいかなと、そう思います。

というのは、30センチ以上の場合には粗大ごみになるわけで、30センチ以下は、何というんですか、燃えるごみのほうで持って行って、なるわけなんですけど、粗大ごみは今までストックヤードでもって、持ってきたら、そのやつを別のところに置くとかというふうな形を取ってやれば、そこでもって分別がつかないというふうに思っていて、それで各区市町村を見てみると、小さな物の品目でもって、10品目、これにもありましたけど、十何品目でもってやっているのが多いので、あまり大きな物だとちょっと問題があるなというふうに思っております。

ですから、できるだけ絞ってやったほうがいいかなというふうに考えております。以上です。

【牧野委員】

2年間、ありがとうございました。先ほど江戸川区さんのほうから説明いただいた災害廃棄物処理計画の中で、今度は国の方針の1つとして、片づけごみの発生という新しい言葉が出てきて、その一次仮置場、二次仮置場というのが出てきましたが、特に江東5区の中の江戸川区というところは地盤の大変低いところがございますから、地震とはまた別に水害があったときには、その置場が水浸しになって、じゃ、すぐに置けるかという問題が出てくると思うんです。そういうときに、地域の皆様の御理解をこれからいただくんだと思うんですが、そういうところで行政の方たちの御苦労大変だと思えますが、ひとつよろしく願いいたします。

私、地域の町会の役員をさせていただいているんですが、やっぱり定期的な町会の中でもそういうことが出てきますので、ひとつよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

【江南委員】

私、この期で初めてこの会に参加させていただいたんですけど、初めの二、三回は何を話しているのかさっぱり分からなかったです。自分の頭が相当悪いのかと思ったりしたんですけども、ふと気がつくと、江戸川区の役所の方の資料の作り方が、その前の流れでやっているから、君たち分かっているだろう的な資料の作り方、あるいは、立って説明される方の説明も、ここまでは君たち分かっているでしょうという説明の仕方なんで、分からなかったということを感じました。

ですから、今度期が変わって、人が変わるということなんで、その辺をもう少し優しく、優しい資料を作っていただければと。以上です。

【林委員】

いろんな御意見と、私のほうはどうしても産業界ということで、ごみを作り出しているほうだと思っんですね。やはりそのアピールというか、こういう活動をしているとか、そういうものが、ハンガーの問題もそうでした。畳みの金額の問題とか、ハンガーの機械によってハンガーの種類が全く合わないからリサイクルできないとか、各業界いろいろな問題を抱えていることも理解できましたので、いい形で終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。

【岩田委員】

今回初めてのメンバー、そして今回初めての出席となりましたけれども、大変勉強になりました。しっかり江戸川区政に生かしていきたいと思っんです。どうもありがとうございます。

【所委員】

私も今回初めてということで、ありがとうございました。まず最初に、目標の年度を前にして、ごみの排出量が大きく削減できたということについては、区の間組、また区民の皆さんの努力というようなことについては、本当にすばらしいなというふうに思っんです。

それから、質問なんですけど、今ここで質問して答えてもらっんじゃなくて、後で教えてもらいたいんですけど、さっき災害ごみのフローというか、そういう中に、被害想定が変わったりして出る量が変わったりとか、また、耐震化が進んで倒れる建物が減ったからというようなことでの想定が変わってきているというのは分かるんですけど、最後の推計式というんですかね、計算式の考え方が変わったというところが、両方ともあるんですけど、この考え方、どういうふうに変わったのかなというところをちょっと後で教えてもらいたいなと思っんです。よろしくお願っんです。

それから、あと、製品プラスチックの回収のことなんですけれども、15品目のこの絵の描いてあるところに入っないんですけども、下のほうに書いてありますけど、歯ブラシですね。これぜひ江戸川区で今、小学校とか毎月1本ずつ皆さんに配って、使っもらって、歯の健康のためにやっているんですけども、環境の勉強にもなるので、これぜひ回収の品目に入れていただいたらいいのかなというふうに思っんです。

それから、あと、この回収のスキームの中で、商品化したものが、先ほどもありましたけど、江戸川区に全部入っって、矢印になっていてということで、これはどんどんどん回収が進んでいっって、いろんなものが作れて、例えばこういうパレットみたいなものが作れるんだとしたら、売っって区の間入りにできるような道があれば、ぜひそういうふうにしてもらったらいいかなというふうにも思っんです。

今日初めてなので、また今後、皆さんと一緒にまたさらなる推進に向けて取っ組んでいきたいと思っんです。ありがとうございました。

【岡島会長】

最後に織先生に、総括じゃないですけど、

【織副会長】

またしゃべりすぎっって言われちゃう。

【岡島会長】

しゃべり過ぎじゃないで早すぎる。もうちょっとゆっくりしゃべっってください。

【織副会長】

ゆっくりしゃべると、テンポが悪くなっちゃう。江戸っ子じゃないけど。皆さん、どうも本当に長い間お疲れさまでした。委員長もおっしゃっていたように、この委員会、すごく活発な議論が行われて、ほかのなかなか区の審議会なんかには比べても身近な問題ということもあって、公募委員の皆さんも、あと議会からの皆さん、それから各業界の代表の皆さんも本当にいろいろ意見を言うてくださって、随分前向きな議論がされたかなと思います。その結果が減量化につながっていったと思います。

岡島先生よく言われるように、松田先生に喝を入れられたというのが、昔、松田先生という女性の委員長がいらっやって、すごく頑張りましょうって感じでやられていたのが、燃えるごみじゃなくて、リサイクルするということまでやってきたのが1つの成果であります。これがまた、これから製品プラスチックという新しい分野と災害廃棄物という分野で、また江戸川区の独自の取組がいろんな区民を巻き込んでやっていければいいなと思っています。

公募委員の方が2年で、まだ話し足りなかったとおっしゃるのはもっともだと思いますが、逆に言うと、公募委員という窓口で次の方がまた新しく入って行って、これで終わりじゃないので、ぜひ戻られたらというか、いろんなところで広げていただくという形でどどんいいるんな方が参加していただければなと思います。本当にありがとうございました。

【岡島会長】

ありがとうございました。この審議会は案外面白いんですよね。大和さんがおっしゃったように、国の審議会、都の審議会、大体出来レースですよ。役人さんが作ったものを委員長と話して、委員長が出して、うまくまとめてくださいというのが大体審議会で、私も国の審議会幾つも出ているから、大体最初から分かっている、第一、委員の中にアンチ政府の人は入れないから、大体そういうことになっているわけです。

だけど、ここはちょっと違って、最初から公募の方々が入ってきて、公募の方が頑張る委員会なんです。私がここ引き受けたときは23区の中でもびりですよ、江戸川区の環境政策は。だけど、だんだんだんだん頑張って、特に際立ったのは、松川さんが踏ん張って、江戸川区のお母さんの代表で演説ぶったんですよ。区長の考えが変わってね。それで、23区のプラスチック全部燃やそうというときに、区長が手挙げて、うちは分別するという話をしたんですね。

最初、この委員会でやったときにはいろんな委員の方が、そんな面倒くさいことを、瓶を洗って出すことなんかやるわけないって言ったら、松川さんが手を挙げて、お母さんを馬鹿にするんじゃないと、江戸川区のお母さんはやると言っていて、たんか切ったんですよ。それで彼女が、ある町内会でやろう、自分のところでしたかね、やるって試したら、みんなやってくれたんでね。それで今度はある町内会を選んで、何か所かやったら、それもみんなやってくれたんですよ、江戸川区のお母さんは。

それで自信を持って、区長が、都が決めた大号令のやつに対してアンチ手を挙げて、そのときにたしか5つか6つの区も賛成したんですけど、今、やっていないところもあるけれども、半数以上ですか、13か14だから、今、江戸川区と同じようなシステムを取っているということで、江戸川区は10年前よりもっと前か、松田さんという、織さんよりもっとおっかないおばさんがいて、その方が区の職員を徹底的にいじめたんですよ。それで、係長なんて、日曜だろうが何だろうが呼び出されて、こんこんとお説教食らって。でも、結果的にだけど、すごくよくなって、10年もかからないうちにトップになりましたね。あらゆる廃棄物のデータとか、環境対策とかいうものがトップになって、今、結構いい線行っているんだと思います。

それは、この審議会の方々の1つの成果ではないかと思いますが、これから今まで2年間御苦労さまでございましたけれども、審議会を下りたからといって意見を言う場所がないわけではないので、ぜひまた人を介してでもいいから言って、また、返り咲いて、またやりたいとか、いろんなことが考えられますので、そういうような伝統もあると

ころで、区民代表、議会の先生、事業者の方々、それから商業会、商工会、こういう方々が一緒になって区役所のお尻をたたいて、そして、江戸川区では今、環境行政は都の中でもかなりトップを走っているという状況にあるかと思しますので、そういう意味では、大和さんがおっしゃったのは若干違ったような部分もあると思います。区役所が細かいことはやってくれますけど、大きいところのかじを切るときには、かなりこの審議会からの意見が作用しているかと思えます。

そういうことなので、これからもまた残る人も、また新しく入ってくる人も、そういう形で役所と町内会や業界、それから一般市民、それぞれの代表が活発な意見を取り交して、そして、江戸川区がよくなればいいわけで、ぜひそういうことの伝統を引き継いでまたやっていきたいと思えます。

そういうことで、今回皆さん2年間、本当にお疲れさまでした。御苦労さまでしたということで、今回は終わりたいと思えます。

それで、役所のほうから、伝達事項があればお願いします。

【事務局（久保課長）】

ありがとうございます。最後に事務連絡でございます。本日お配りしております江戸川区廃棄物減量等審議会の議事録でございます。こちらの議事録、もし訂正がございましたら、7月の26日の金曜日までに、こちらの清掃課庶務係まで御連絡いただければと思っております。どうぞよろしくをお願いします。

最後に、皆様から御挨拶いただきまして、ありがとうございます。本当2年間、長きにわたりまして、皆様の御意見のおかげで我々の清掃行政が進めたと思っております。区の施策、皆様のお力のおかげで、また、お力なくして進みませんので、また今後ともお力をお借りできればと思っております。皆さん本当にありがとうございました。

【岡島会長】

それでは、以上をもちまして閉会とさせていただきます。どうも皆さんありがとうございました。

了